

杖ことば

2023. 6. 10

「杖ことば」とは、もう駄目だというとき、自分を支え、再び立ち上がらせてくれる言葉である。ともすれば、しゃがみ込みたくなるようなとき、人生の苦難の旅路を共に歩き、その一步一步を杖となって支えてくれる言葉を指す。

人間は、言葉によって傷つき、また言葉によって癒され、救われることがある。日本人は、昔から言霊といって、言葉には霊が宿り、特別な力があると信じてきた。日本だけではなく、東洋の宗教やヨガの行者は、神仏への祈りや讃歌を短い真言に込めて唱えてきた。キリスト教文化では、言葉をロゴスといい、新約聖書の中で、「はじめに御言葉があった。御言葉は神とともにあった。御言葉は神であった」と書かれてある。洋の東西を問わず、言葉は単なる言語の働きを超えた力のある実体と考えられてきたようである。

杖ことばとは、そのような霊力のある言葉が、杖の形に変化して、倒れそうな人間を支えるということなのではなかろうか。テレビドラマや映画、小説などでは、主人公をはじめ登場人物から、この杖ことばが出てくることがある。もう駄目だと思うとき、崩れ落ちそうなとき、もう諦めてしまいそうなとき、再び立ち上がらせ、もう一歩進んでみようかという気にさせてくれるのが、杖ことばである。

それは、人生、かくあるべきだといった、大上段にかまえた箴言、金言ではなく、もっと、もっと、さりげない言葉、素朴な言葉のような気がする。例えば、親がいつも言っていた言葉、何気なく友人が発した言葉、部活動の顧問の先生が教えてくれた言葉なども、そうであろう。日々の暮らしの中で、どうしてもこうにも行き詰まり、立ち止まってしまったとき、その言葉を思い出し、固まった心身をほぐしてくれるようなものである。

私の杖ことばは何だろうか。考えてみた。いくもの仕事が重なり、もう駄目だと思ったときに出てくる言葉がある。「ひとつひとつ」これだけである。ひとつひとつ終わらせていけば、そのうちすべて終わる。それはそうなのだが、心の中で「ひとつひとつ」と念じていると、なぜか心が落ち着き、前に進むことができる。駄目だと思うと、落ち着きがなくなり、余計に時間がかかり、ミスも出る。

不思議なことに、この言葉が、ひとつの“てこ”となって、背中を押してくれるのである。重い荷物を背負って、山に登らなくてはならないとき、「ヨッコラッショ」と、自分自身に掛け声をかけて、立ち上がる。そのヨッコラッショに当たるのが、杖ことばなのかもしれない。

思えば、頻繁に杖ことばが出てくるわけではない。今では、たまにしか出てこない。それだけ、人生の難儀に直面することが減ってきているということだろう。これからは、また違った杖ことばと出合えるかもしれない。それはそれで楽しみである。